

アジア・アフリカ地域研究研究科

I	研究水準		研究 12-2
II	質の向上度		研究 12-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、21 世紀 COE プログラム「世界を先導する総合的地域拠点の形成」の成果を継承しグローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」へと発展させているほか、研究科附属イスラーム地域研究センター及び京都大学地域研究統合情報センターの設置を通して研究科における研究活動を一層充実させている。研究資金の獲得状況については、平成 16 年度から平成 18 年度の期間、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が 61 件（約 5 億 7,000 万円）、委任経理金受入れ数（受入れ金額）が 8 件（約 2,000 万円）となるなど、活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

特に、21 世紀 COE プログラム「世界を先導する総合的地域拠点の形成」において、臨地教育・研究体制の整備を進め研究科附属イスラーム地域研究センター及び京都大学地域研究統合情報センターの設置を通して研究活動を一層充実させたほか、21 世紀 COE プログラムの成果を継承し、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」へと発展させたことは、特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、アジア・アフリカ地域研究研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、アジア・アフリカ地域研究研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、アジア・アフリカ地域研究分野において先駆的な成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、例えば、ナイジェリアとザンビア両国における村落調査結果を基にポリティカル・エコロジー論的視点から農業・農民の生業活動の変化を比較検討し地域間比較研究に一つの手法を提示した研究で、極めて評価の高い成果が得られている。社会、経済、文化面では、ウガンダ西部におけるトーロ

語に関する研究、南部アフリカの狩猟採集民であるサンを対象とした養育者と乳児の相互行為の発達に関する研究等で社会的に意義の高い優れた成果を上げている。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、アジア・アフリカ地域研究研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、アジア・アフリカ地域研究研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。